

お鍬山 植物たより (H26. 10. 15)



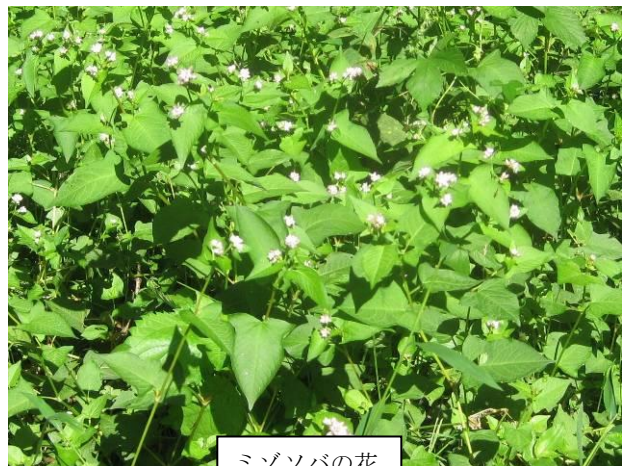
コウヤボウキの花の蜜を吸うアサギマダラ

お鍬山にもアサギマダラが飛来してきました。

アサギマダラは渡り蝶とも云われ、春には北上して北海道や本州の高原で生息し、秋になると南下、沖縄などで見られる日本列島を長距離移動する蝶です。この時期、新聞に掲載の常連の蝶でもあります。フジバカマやヒヨドリハナの花の蜜を吸っている写真が多いのですが、南

下の途中、お鍬山ではコウヤボウキ (H25.10.20 掲載) の花の蜜を吸いに立ち寄ってくれたようです。コウヤボウキはお鍬山の各所に見る事ができます。細い枝で、よく枝分かかれし、高さ 60~90 cm のためか樹木なのに、一見草本かと思ってしまう。本年枝は互生し、前年枝には節ごとに 5~6 個の葉を束生します。コウヤボウキは本年枝の先端に白い頭花を一個つけます。ナガバノコウヤボウキは前年枝の束生した葉の中央につけます。お鍬山で見るのは、いまのところコウヤボウキのみです。たまたま 10 月 10 日午前 11 時頃に散歩していた時に、北側の斜面にかたまって自生しているコウヤボウキの花の蜜を吸っているアサギマダラに出会いました。お鍬山でははじめての体験です。コウヤボウキの名は高野山でこの枝を束ねてほうきをつくったことからのようです。

南側の谷筋にはミゾソバが群生をしています。枝先に 10 個前後の淡紅色の小さい花を密につけています。ママコノシリヌグイ (H25.8.15 掲載) とタデ科イヌタデ属の同科同属と云う事もあって花だけでなく、茎に下向きの刺があるのも同じですので気を付けましょう。ミゾソバとは溝に生え、ソバに似た草ということでこの名がついたとのこと。籠川の川辺では各所に大群生しています。



ミゾソバの花